

建設工事における生産性向上のための新たな取組みを試行的に実施します ～「発注工事の規模の見直し」及び「概算数量発注方式の導入」を実施～

千葉市では、生産年齢人口が減少する中、将来の人手不足への対応や地元建設企業の育成・確保を図るため、建設工事の生産性向上に取り組んでいます。

2019年度から、建設工事における生産性向上のための新たな取組みを試行的に実施しますので、お知らせします。

1 新たな取組みの概要

(1) 発注工事の規模の見直し

ア 対象工事

土木事務所発注の土木、舗装業種の工事（舗装や側溝の改良工事など）

イ 内容

土木、舗装の業種及び企業の規模（等級）ごとに、市内建設企業が適正な利潤を確保しやすい発注工事の規模（工事価格）を推計した上で、発注する。

ウ 効果

企業が適正な利潤を確保しやすくすることで雇用拡大や設備投資を促進し、企業経営の健全化を図ることができる。

(2) 概算数量発注方式の導入

ア 対象工事

土木事務所発注の舗装補修工事など、比較的簡易な工事

イ 内容

通常の工事では、設計業務等により算定した詳細な施工数量を基に工事価格を積算しているが、概算数量発注方式を適用する工事では、概算の施工数量により工事価格を積算して発注する。

ウ 効果

当初発注時に舗装面積等の施工数量を概算数量にすることで、受発注者の設計積算業務の簡略化及び効率化による事務負担を軽減するとともに、工事の早期発注など事業の円滑な執行を図ることができる。

2 試行期間

2019年度、2020年度の2年間を予定

※業界団体との意見交換や学識経験者への意見聴取などを通じて施策の効果検証を行い、本格導入を検討

<参考>

1 これまでの生産性向上に係る取組み

(1) 施工時期の平準化（平成26年度～）

ア 目的

年度末付近に集中している工事稼働の状況を改善し、年間を通じて工事稼働を均一化することで企業経営の安定化を図る。

イ 内容

債務負担行為を活用した次年度工事の前倒し発注により、4～6月の工事閑散期における工事稼働を増加

(2) ICT活用工事の推進（平成29年度～）

ア 目的

ICTを活用することにより、建設現場の生産性向上（施工の効率化）、安全性向上（建設機械周辺作業員の削減）、若手技術者の育成・確保（経験の浅い作業員の活躍）を図る。

イ 内容

受注者希望型のICT活用工事を試行的に実施

(3) 電子納品・電子検査の推進（平成29年度～）

ア 目的

工事関係書類のペーパーレス化により、印刷やファイリング、書類提出の移動時間などを削減し、現場の事務負担軽減を図る。

イ 内容

土木工事を対象に電子検査を試行的に実施

(4) 広報活動・キャリア教育の推進（平成29年度～）

ア 目的

優秀な人材確保により、建設業全体の底上げを図る。

イ 内容

各協会のボランティアによる職業体験を通じたキャリア教育、週休2日制モデル工事の導入

2 用語について

(1) 企業の規模（等級）の「等級」とは

建設工事の種類に応じ、千葉市入札参加者資格審査基準において、企業に対して等級の格付けを行うもので、土木はA, B, Cランクの3等級、舗装はA, Bランクの2等級がある。

(2) 「概算数量」とは

設計図書に示した平面図及び標準断面図等の代表的な数量により算出した概算の設計数量をいう。

(3) 「ICT（Information and Communication Technology）活用工事」とは

情報通信技術を活用した工事のことで、起工測量から施工、施工管理、検査、納品までの全てのプロセスでICT技術を全面的に活用する工事

(4) 「週休2日制モデル工事」とは

建設産業における技能労働者が減少傾向にあり、担い手確保が課題となっているため、長時間労働の是正や休日確保に向けた環境整備を進める上での課題を抽出するために実施しているモデル工事